山口大学医学部附属病院で働く人々を、情報で結ぶコミュニケーション・ペーパー

山大病院だより

2013.04
No.210

特集 新病院長就任ご挨拶、新看護部長インタビュー

山口大学での略歴	専門：整形外科 S55 医学部医学科卒業、S59 大学院医学研究科博士課程修了、S59 医学部 助手、H7 医学部附属病院 講師、H14 医学部 助教授、H16 医学部 教授、H19 医学部附属病院 病院長補佐、H22 医学部附属病院 副病院長。 趣味：読書、スキー

田口病院長 就任挨拶

この度、山口大学医学部附属病院長を拝命しました田口敏彦です。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

大学病院の使命は教育、診療、研究の３本柱であることは永らく言われてきたことですが、最近では、さらに地域貢献・社会貢献、国際化が加わり、５本柱が掲げられるようになりました。平成22年から医療経営センター長として病院経営改善に努め、これらの柱について高いレベルで達成できるように提言してきました。

山口大学医学部附属病院の目標は「医療の質の向上」であり、その具体的な理念・目的は

1. 患者の立場に立った全人的な医療を実施する
2. 将来を担う医療人を育成する
3. 世界に発信する先端医療を推進する
4. 地域医療を発展させる

の４項目を掲げています。すなわち大学病院では、その出発点において社会的責任があり、これそのものが経営理念にもなっています。

社会的責任が経営理念になっている組織が利益をあげるということは大変なことではありますが、山口大学医学部附属病院では、医師、看護師や事務、その他のメディカルスタッフのこれまでの努力により、確実に利益を上げてきています。国からの補助が漸減している中では、利益を上げなければ、老朽化した建物の改築・修繕はできませんし、医療機器の更新もできません。

病院職員が十全に働いているのは明らかなことです。これ以上に頑張って働く必要はないのですが、賢く働く工夫は必要です。そのために、医療系職員と事務系職員の密接な連携をさらに充実・発展させなければなりません。組織が大きくなると、他部門の事情や苦労が分からなくなります。同じ施設の中で苦労している他部門の事情を考慮し、お互いに緊密に理解し合うことが結束と飛躍のための第一歩です。このためには多くの人が情報を共有化しなければならないと思っております。

山口大学医学部附属病院の更なる発展を目指して、また、山口大学医学部附属病院で働くすべての人が誇りをもって働くことができる病院になることを目指して全力を尽くす覚悟でありますので、ご支援よろしくお願い申し上げます。

Human

ーひとー

人

新しく就任された
皆さまをご紹介。

新看護部長インタビュー

この4月に、看護部長に就任された猪上看護部長。
新たな体制での今後の目標などをお伺いしてきました。

前任の花田看護部長は、「変化に強い組織づくり」「看護の質の向上」「看護部職員が自分の組織に誇りが持てる」を目標にマグネット看護部を目指されてきましたが、猪上新看護部長はどのような看護部を目指されますか。

花田前看護部長と一緒に取り組んできた「マグネット看護部」(自分たちも働きやすく、人からも魅力的に思われ、患者さんからも信頼される看護部)を、これからも目指していきます。

花田前看護部長は、先生方やメディカルスタッフ、事務の方々、保健学科の先生方からの信頼も厚く、いろいろな思いをはっきりと言葉にされて解りやすく伝える力を持っておられ、先生方やメディカルスタッフと協働して、看護部の役割や期待にきちんと応えて形にしておられましたので、是非、それを目標にして、信頼していただけるようやっていきたいと思っています。

今まで培われてきた他部門との素晴らしい協力体制、チーム医療の絆を大切にし、より強固なものにしていきたいです。

看護部長

猪上妙子 Inoue Taeko

出身：福岡県大川市

趣味：海外旅行
(ヨーロッパが大好きです。夏休みには必ず日本を脱出します！)

特技：早寝早起
(朝は一番元気がいいです！)

猪上新看護部長が新しく進めたいことは？

今は、育児や介護のために夜勤ができない看護師も多く、短時間労働を導入するなど働き方が多様化していますが、それぞれの働き方を皆が理解し合えるようにしていきたいです。また、育児や介護などに携わっていない看護師にもメリットがあるような、皆が公平で働きやすい環境や制度をきちんと整え、働き続けられることを目指していきたいと思っています。看護部がそれを定着させることで、女性医師やメディカルスタッフへの波及効果も期待しています。今後は、新病棟の建設が具体化してくるとともに、さまざまなことを検討していく必要があると思いますので、しっかり対応していかなければならないと思っています。

看護師の方たちに伝えたいことは？

看護部は、学生から社会人1年生になる人が多いので、挨拶の仕方・礼儀作法はしっかりと伝えていきたいです。朝は特に元気な私ですが、大きな声で挨拶するなど、皆には元気でいて欲しいですね。

また、ON・OFFの切り替えをしっかりして、大いに遊んで欲しいです。いつも100%で走るのではなく、少しゆとりを持って過ごしてもらえたらと思います。朝早くから夜遅くまで本当に大変だけど、「看護を好き」でいてほしい。一緒に頑張っていきましょう。

就任のご挨拶

医学系研究科
分子病理学分野
教授　伊藤　浩史

1月1日付けで分子病理学分野(旧病理学第二)教授として着任いたしました伊藤浩史です。私は昭和61年に宮崎医科大学(現宮崎大学医学部)を卒業し、国立がんセンター研究所、米国ハーバード大学等での研修等を経て、平成17年に福井大学医学部腫瘍病理学教授として赴任致しました。南国宮崎で20数年、雪国福井での7年間の生活を経て、今回ここ山口大学医学部にやって参りました。このように書きますと、「一体こいつは何者だ?」と思われるかもしれませんが、実は出身はここ山口県宇部市で、昭和54年に県立宇部高校を卒業し山口を離れて以来30数年を経て、ようやく郷里に戻ってきたことになります。

大学時代は温暖な宮崎での生活を満喫し、勉強よりも遊び(登山、軽音楽)に明け暮れていましたが、多くの友人や先輩に恵まれ、卒業後の進路に病理学を選んだのも、先輩が楽しそうに研究している背中を見ていたからです。大学院生時代は、機械にセットした実験結果を早く知りたくて、教室に寝泊りしながら、その合間に剖検や病理診断もこなし、忙しいながらも充実した日々を送りました。

大学院修了後はやはり世界に通用する研究者になりたいと思い、恩師に願い出て、国立がんセンター研究所や米国ハーバード大学で研究する機会を与えていただきました。大学院当初より研究テーマは「がん」でしたので、以来一貫して「がん」の分子生物学的な研究、特に消化器、泌尿器系の腫瘍に関して研究を進め、臨床病理診断の方も、自ずから消化器、泌尿器系を専門とし、病理専門医、細胞診専門医、臨床遺伝専門医として種々のカンファレンスに参加する等、臨床にも深く携わって参りました。

今後は先代の佐々木功典先生の成果を引き継ぎ、私のこれまで行ってきたことと融合させて、教育、研究、臨床を有機的に調和したバランスのとれた病理学教室にし、若い優秀な人材を育てていこうと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

↗ 宮崎交通のバス停のミニチュア！先生の研究室にありました！

就任のご挨拶

医学系研究科
環境統御健康医学分野
教授　田邉　剛

はじめまして、環境統御健康医学分野(旧公衆衛生学)の田邉と申します。山口大学を昭和61年に卒業し、最初は山口大学の小児科に入局しました。その後、東京大学医科学研究所、ミシガン大学、産業技術総合研究所、島根大学を経て、およそ20年ぶりに山口大学にもどってきました。久しぶりの山口大学は、特に研究環境と教育環境が充実しているのには驚きました。

専門の環境統御健康医学分野は、病気の発症の原因となる環境因子と個体要因を明らかにし、早期発見や予防を行うことを目的としています。研究、教育、社会活動のバランスをとって、山口県の医療の発展に貢献したいと思います。

現在は、血中アミノ酸を指標とした疾患スクリーニング法の開発を進めており、これまで悪性腫瘍、肝線維症などの診断への有用性が明らかになっています。また、生活習慣病発症の分子機序の解析も進めており、インフラマソームという自然免疫系について、遺伝子多型の解析や活性制御システムの構築を進めています。

今後は、生活習慣病について、高リスク群の同定と発症予防、治療応答性や予後の予測を実現させたいと考えています。

山口大学の皆様、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

全国各地の日本酒を飲んでこられた先生。「長州学舎」は五本の指に入る！と言われていました!!

Report

様々な出来事をご紹介します。

イベント・レポート

男女共同参画シンポジウムin小串

12月21日(金)、男女共同参画支援部門及びコ・メディカル育成支援部門共催により、「男女共同参画シンポジウムーin小串」を開催し、医師、メディカルスタッフ等50名の参加がありました。

今回のシンポジウムでは、男女共同参画支援部門の活動報告と、10月に実施した「職員の勤務環境の現況に関する調査」の結果報告が行われました。

また、大阪厚生年金病院名誉院長の清野佳紀先生より「ワークライフバランスの推進が病院を活性化する」というテーマで、ワークライフバランスを主眼としたフレキシブルな勤務形態での雇用により、有能な医師、メディカルスタッフの離職防止や、組織の健常な年齢構成の維持を実現された実践例をご講演いただきました。

1時間半という短時間のシンポジウムでしたが、本院における男女共同参画支援活動のキックオフにふさわしいものとなりました。

第1回　山口大学医学部保護者見学会

1月12日(土)、総合研究棟S1講義室において、医学部医学科4・5年生の保護者を対象にした第1回保護者見学会を開催し、85名の保護者が参加されました。

この取組は、より良い医学教育・研修環境を提案することを目的としたアクションプランに採択された学生の提案を受け実施したもので、医学教育のプログラム、医学部の取組み、臨床研修医制度やマッチングのしくみなどを保護者の方々に理解していただくとともに、卒業後の将来像をイメージしていただくことを目的として開催しました。

カリキュラムや臨床研修医制度等の説明会の後には、保護者から様々な質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。続いて行われたキャンパスツアーでは、クリニカルスキルアップセンター、地域医療教育研修センター「白翔館」、医学部図書館及びドクターヘリを約2時間にわたり見学しました。

参加された多くの保護者からは、医学部の教育環境や臨床研修医制度への理解が深まった、充実した内容で有意義な時間を過ごすことができた、来年度も開催してほしいなどの感想が寄せられました。

News

ホットなニュースをご紹介。

山大病院 NEWS

中国地方五県による ドクターヘリ広域連携基本協定締結式

1月23日(水)東京都内において、中国地方の5県と本院を含む4ヶ所の基地病院による、ドクターヘリ広域連携基本協定締結式が行われ、本院からは岡正朗前病院長が出席しました。

締結式では、始めに平井伸治鳥取県知事から挨拶があり、続いて基地病院長を代表して角田司川崎医科大学附属病院長から挨拶があった後、基本協定書にそれぞれが署名し、記念撮影が行われました。締結式終了後は記者会見が行われ、山口県知事代理で出席された村田常雄山口県東京事務所長は、「救急医療体制の充実につながり関係機関とともに頑張りたい」と話されました。

ドクターヘリは、これまで災害時を除き、県内での運航を基本としていましたが、この協定締結により、今後は、傷病者の生命に関わる等の理由から緊急性を有すると認められる場合には他県のドクターヘリの要請が出来ることとなり、また、災害発生時の運用においても各県が協力して行うことが確認されました。山口県では、今後、相互乗り入れの運用について隣県の島根県や広島県との間で本格的に協議を進めていくこととしており、広島県の本格運航開始後(平成25年6月頃)に広域連携を始める予定にしています。

締結式後、岡正朗前病院長はこの広域連携について「附属病院では既に津和野や益田など県境からドクターヘリ派遣の依頼があります。この協定締結により円滑な運航が可能となり、多くの患者さんの命が救えることを期待しております。」と想いを語られました。

地域医療だより

大切な命を守れ!

RUN&コースボランティア／第13回萩城下町マラソン

写真1　ラン＆ポケマ隊
走行中は専用の襷(オレンジ)を着用し、人工呼吸用のポケットマスクが最低装備です。意識のない患者を発見した場合には、速やかに競技を中断し、コースボランティアとCPRを実施することがミッションです。

写真2　コース＆AED隊
デジタル無線機と移動用の小型バス・携帯式自転車を駆使するため、競技の進行とともに、心事故の予測ポイントに随時移動し広域に展開できます。

最近の健康ブームや地域活性化と相まって、空前のマラソンブームが起こっています。しかしながら、地域許容を超えた参加者数の増加や高齢化、フルマラソンなどの長距離種目への志向に加え、救急医療体制の不備などの問題点も顕著となっており、とりわけ安全面の確保が急務となっています。

Maron BJ博士らは、マラソン大会参加者の５～10万人に１人が心臓突然死を起こすと報告しています。今年の東京マラソンでも30歳代の男性の心停止がありましたし、山口県内のマラソン大会においても心停止事故が発生しています。そこで私たちは、２年前から学生ボランティアや山口大学病院陸上部、萩市医師会、萩市教育委員会、萩市民病院職員と一緒に、CPRに特化したチームを結成し、萩市城下町マラソンのボランティアを２年連続で行っています。

重要な点は、ボランティアはやる方も楽しくなければ持続しません。そこで、競技にも参加したいボランティアには、“ラン＆ポケマ隊”(写真１)として参加してもらい、走るのは苦手でも、マラソン大会独特の雰囲気を味わいたいボランティアには、全員にトランシーバーを渡し、災害医療現場さながらに、“コース＆AED隊”(写真２)として参加して貰いました。AEDもこの規模の市民マラソンとしては最大規模の７台を投入しました。

写真3 萩市民病院にて
CPR講習会。学ぶことは救命につながります。

写真4 萩ウエルネスパークにて
当初は５名でしたが、昨年は計28名もの医務室ボランティアの参加がありました。みなさん、本当にありがとうございました!

また、事前CPR講習会を医学部スキルアップセンターで計５回と、萩市民病院研修室(写真3)で１回の心肺蘇生講習会を行い、CPRの質にもこだわっています。みんなの努力と協力のお蔭で、第12回ならびに第13回萩城下町マラソンで、のべ8,997名の参加者がありましたが、２回とも心事故や大事故の発生はありませんでした。やはり何も起こらないのが一番と考えています。

最後に、本活動は地域貢献や社会貢献のモデルとして、今後とも進めていきたいと考えています。興味を持たれた方は是非ご連絡ください。

【地域医療推進学講座　中村浩士】

TOPICS

手指衛生缶バッチ

この度、新しくできた「手指衛生缶バッチ」。皆さまには、もうお馴染みなのでは??

このバッチは、手指衛生の意識付け、リマインダーになればと、看護部の感染対策委員会が主体となり作成されたものです。

看護部やコ・メディカル部門から届いた30通ほどのデザインの中から選ばれたのは、１病棟８階東の看護師チームのデザイン。シンプルで分かりやすく、手指衛生に特化してアピールできそう、というのが選定理由です。

現在は、看護師長、感染担当看護師、病院内の感染対策委員、診療科長や、病棟医長らに150個ほど配付され、手指衛生のアピールに一役買っています。

感染対策の基本は
「手指衛生」です。
皆さま、よろしくお願いします。
感染制御室

英語版ホームページを開設

平成24年12月21日、山口大学医学部附属病院の英語版ホームページを開設しました。

今後も日本語版同様に、更新していく予定です。

すぐ使える豆知識コーナー

ハーブを使ったまめまめ情報
＜花粉症にはビタミンC!の巻＞

花粉症には→ネトル＋ローズヒップ＋エンダーフラワーなどのブレンドティーが効果的ですが、ブレンドが面倒だなぁ～っという方に。。。

ぷちまめ知識　ローズヒップは赤く酸っぱいイメージがありますが、市販のローズヒップティーのほとんどにハイビスカスがブレンドされているためです。

～花粉症で失われがちなビタミンCの補給のために～

♪ローズヒップジャムの作り方♪

(ローズヒップは天然ビタミンCをレモンの20～40倍含んでます★)

①ローズヒップを手鍋に入れ、ひたひたの水を加えて火にかけます

②沸騰したら弱火にし、20分くらい煮込みます　甘さが欲しい場合は、ハチミツを!

編集後記

●編集担当(総務課総務係：K.T、C.I)

この４月から、田口病院長と猪上看護部長が就任され、新体制が始まりました。皆さん、気持ちも新たにがんばっていきましょう!

また、地域医療だよりをご執筆くださる中村浩士先生の活動には、いつも頭がさがります。毎号、先生が笑顔で活動されていることがとても印象的です。次号もお楽しみに!

■発行者情報

企画発行：山大病院だより編集委員会
事務担当：山口大学医学部総務課総務係
TEL　：0836-22-2007
E-MAIL：me202@yamaguchi-u.ac.jp